

向陵小学校の授業 聴覚障がいについて学ぶ！

9月30日に校長が講師となり、向陵小学校の5年生が総合的な学習の時間として、人と人との「分かり合うために」ということをテーマに聴覚障がいのことや手話・指文字などについて学んでくれました。

冒頭に、今年度、日本初開催となる「デフリンピック」（4年に一度行われる聴覚障がい者のオリンピック）を紹介しましたら、半数近くの児童が知っていると言ってくれて驚きました。NHKの番組を見たとのことですが、今日で全ての5年生が知ってくれたことになるので、11月には、競技を見て応援してほしいなと思いました。また、本校の5年生4人による動画メッセージを見てもらいました。クラブ活動と一緒に活動しているお子さんもいますが、全ての児童がかかわっているわけではないのでじっくりメッセージを見て聞いてくれていたのが印象的でした。聾学校の子どもたちは、「聞こえない人の中にも、様々なきこえの人がいたり、コミュニケーションの取り方に違いがあったりする。」ということを表すために、動画を工夫してくれました。自己紹介の際に、手話を使わないで話す人や手話だけで話す人、手話を通訳する人など、役割を決めて自己紹介をしてくれていたのが、向陵小学校の皆さんが考えるきっかけになったと思います。「聞こえない人や聞こえにくい人のこと、私たちのことを知ってもらえると嬉しいです。」というメッセージはきっと向陵小学校の5年生の皆さんに届いたと思いますよ。

また、今回は、旭川聾学校サポーターズの皆さんが10名参加してくれ、向陵小学校の子どもたちの学びをサポートしてくれました。まさに「サポーターズ」です。手話や指文字を学ぶ際に、一人一人に声を掛け、表現の仕方をサポートしてくれました。とても学ぶ意欲があるなと驚かされたのは、授業が行われる前に自分の名前を指文字で練習してくれてくれたお子さんが多かったことです。私に見せてくれました。「手話があれば必ずしも伝わるわけではないということ」を考える学習場面では、「はじめから手話を知っているわけではない。」など、相手のことを想像しながらロールプレイし、みんなの前で発表してくれ、積極的に学んでくれました。



聾学校の児童の自己紹介動画

最後には、「こんにちは。私の名前は～です。よろしくお願いします。」という指文字混じりの手話表現を全員ができるようになって、終わりました。とても実りの多い学習活動になったと思います。私も一緒に学ばせていただき、とてもありがたかったです。5年生の学級担任の先生方も一緒に学習者になっていただいて、お二人の好きな食べ物を手話で表現してくれ、とても盛り上がりました。ありがとうございました。

これからもどうぞよろしくお願いします。



向陵小学校 5 年生の授業風景

私は、この取組は次のように多くの意味をもっていると考えています。

- 1 地域の力を結集した旭川聾学校サポーターズの皆さんが力を貸してくださって聾学校の取組を推進できたこと。
- 2 地域に生活する同年代の子どもたちが聴覚障がいについて理解を深め、手話や指文字を体験し「もっとやってみたい」「もっと覚えたい」と思ってくれたこと。
- 3 そして、本校がこの取組を通じて地域から求められたことに応えられたこと。

これらのことは、本校が取り組んでいるコミュニティ・スクール（CS）の中の「地域学校協働活動」の2つの側面である「地域と学校の連携による取組」と「学校が地域に貢献する取組」に直接つながっており、本校が目指している姿につながっていくと考えています。

今後とも、旭川聾学校の教育活動に皆様の御理解と御支援をいただきますようお願い申し上げます。

